十三人の志士

文久三年（一八六三）八月、大和（奈良県）で天誅組の乱が起きました。その倒幕挙兵に呼応すべく、但馬にいた薩摩脱藩浪士の美玉三平や長州奇兵隊出身の河上弥一たちが生野代官所の襲撃を目論みました。

しかし、その年の十月九日、長州落ち七卿の一人、青年公卿の沢宣嘉を生野挙兵の総帥にたのんで、浪士一行が長州から海路飾磨へ到着した時、天誅組は早くも壊滅したとの知らせを受けます。

挙兵計画の理論的指導者だった、国学者の平野次郎国臣や、但馬の郷士多田弥太郎たちは、もはや挙兵の意味なしと判断、中止しようとしましたが、強硬派の河上弥一らに押し切られて、意に染まぬまま行動に移ります。この同志間の意志の不統一、気持ちも意見もばらばらの結末の脆さが最後までたたり、生野義挙はたった三日間で破綻します。

十一日夕、森垣村（朝来市）延応寺に集まった志士たちは、翌十二日代官所を無血占拠したものの、依然として意見は紛糾混乱するばかりでした。これを危ぶんだ沢卿は、側近とともに本陣を脱出、逃走しました。加えて集まっていた農民たちは、近隣諸藩の兵が自分たちの鎮圧に来ると聞き、鉾を転じて浪士たちに襲い掛かり、襲撃された志士たちは追い詰められ、あるものは自殺、あるものは捕らえられました。

そして、四十数人の志士のうち、十三人が宍粟へ逃げます。

まず、沢宣嘉一行五人は、段ヶ峰、砥峰の高原一帯を三日三晩さまよい、十五日夜明けにやっと福知村の奥、白口村にたどり着き、たった四戸の村のとある一戸に入って食を乞いました。「麦ばかりの粗飯であったが、これまで食った中で最高の珍味佳肴だった。」と、沢卿は後に述懐しています。一行は無事に作州（岡山県）を経て、四国へ逃れました。

また、この義挙に加わっていた筑前藩士関口泰次郎ら一行五人は、千町から横住谷を通り、福中で干し柿、福知で餅を少々、五十波まで出て、女性から茹でたそうめんを恵まれ、庄能、菅野谷を通って、作州へ逃れました。

しかし、相前後して神子畑（朝来市）から黒原、三方町へと南下した美玉三平、中島太郎兵衛、その実弟の黒田与一郎の三人は、悲惨な最期を迎えます。

「代官所を襲い、大金を強奪した賊を討ち取るように」との、生野から村継ぎの通達を受けた農民は、三人を追い、ついに清野で追い詰め、射撃を浴びせました。

重傷を負った中島太郎兵衛は、木ノ谷の民家に入って、弟与一郎の介錯を受け、美玉は近くの椋の木の根元で息絶えます。与一郎は捕らえられて、京の六角獄舎に収監されましたが、のちに獄死しました。

二人の終焉の地、木ノ谷の美国神社は、この三人の霊を祀っています。

境内には、美玉、中島両士の墓があり、碑文が刻まれています。明治四十四年に地元の有志により完成した碑です。

浅田　耕三

山崎町木ノ谷にある美国神社
写真左側には美玉・中島両氏の墓があります

編集後記

光陰矢のごとしと言いますが、本当に月日の経つのは早いものです。昨年の４月に今の体制となって広報誌づくりに取り組んできましたが、早一年が過ぎました。できる限り「読みやすい・分かりすい」紙面づくりに心がけてきましたが、如何だったでしょうか。今月号の８頁に広報に関するアンケート調査の結果を一部掲載しています。いろんなご意見の中には、気付かされることや的確なご指摘もあり、大変参考になりました。こうしたご意見を生かし少しでも良い広報をお届けできるよう、これからも頑張ります。 真

広報しそう 3月号
平成28年3月15日発行（132号）
発行／宍粟市　編集／企画総務部秘書広報課　〒671-2593　兵庫県宍粟市山崎町中広瀬 133-6
☎0790-63-3000（代）　FAX 0790-63-3061（代）　info@city.shiso.lg.jp　http://www.city.shiso.lg.jp

VEGETABLE OIL INK　この広報紙は環境保護のため、植物油インキと古紙再生紙を使用しています。